

## ミューズ N0.18 平和のための博物館・市民ネットワーク通信

発行：2006年11月

編集：山辺昌彦、山根和代、安齋育郎、金英丸

翻訳：林清俊

イラスト：戸崎恵理子

事務局所在：東京大空襲・戦災資料センター内 山辺昌彦気付

住所：東京都江東区北砂1-5-4

Tel: 03-5857-5631 Fax: 03-5683-3326

全国の平和博物館、平和資料館などの活動について、お知らせします。平和博物館国際ネットワークのNewsletterはまだ発行されていませんので、こちらに入ってきているニュースだけお知らせします。

### 「平和のための博物館・市民ネットワーク」 第6回全国交流会の報告

2006年11月11日（土）13時～17時30分と12日（日）9時～12時の日程で、東京都新宿区戸山1-24-1の早稲田大学文学部33号館の第1会議室で「平和のための博物館・市民ネットワーク第6回全国交流会」が開催されました。参加は39名でした。

以下の通り、報告がありました。

11日、司会は安田和也・山辺昌彦  
山辺昌彦（平和のための博物館・市民ネットワーク事務局）「日本における『平和のための博物館』の最近の概況」  
藤田秀雄（第五福竜丸展示館）「平和博物館の再検討—平和のための学習センター」  
北村浩（東京大空襲・戦災資料センター）「平和博物館と公共性」  
安齋育郎（立命館大学国際平和ミュージアム）  
「北朝鮮の核実験と平和博物館の役割」  
岡安茂祐（わだつみのこえ記念館）「わだつみのこえ記念館の開設」  
野間美喜子・宮原大輔（戦争と平和の資料館）  
「戦争と平和の資料館・ピースあいちの開設にむけて」  
安田和也（第五福竜丸展示館）「30年を迎えた

第五福竜丸展示館」

我妻英司（アウシュビッツ平和博物館）「アウシュビッツ平和博物館の活動」

12日、司会は池田恵理子・山辺昌彦  
花岡千賀子・岩淵宣輝（太平洋戦史館）「人命尊重の視点での未帰還兵捜索」

山根和代（草の家）「『ヨーロッパ平和運動の母』、ベルタ・フォン・ズットナーの展示について」  
山辺昌彦（東京大空襲・戦災資料センター）「東京大空襲・戦災資料センターのリニューアルと戦争災害研究室の発足」

浅川保（山梨平和資料センター）「山梨平和資料センター開設をめざして」

池田恵理子・山本和美・小高真由美（女たちの戦争と平和の資料館）「バックラッシュの中の平和ミュージアム運動」



erico

金英丸(草の家)「次世代へ繋ごう、東アジア、平和博物館運動を！」  
東海林勤(高麗博物館)「高麗博物館の活動紹介」

「平和のための博物館・市民ネットワーク」  
会計報告  
(2005年12月～2006年10月)

開催校の大日方純夫さんに挨拶をしていただきました。

報告者以外に、ひめゆり平和祈念資料館、しょうけい館などから参加がありました。

交流会では、「平和のための博物館・市民ネットワーク」の会計・事業報告もありました。今後の事業については、メーリングリストをつくることになり、「女たちの戦争と平和の資料館」の渡辺美奈さんに担当していただくことになりました。関係平和博物館の共同の案内資料を作成することについては、第五福竜丸展示館の安田和也さん中心に進めることになりました。「平和のための博物館・市民ネットワーク」のホームページ作成については検討事項としました。

事務局は引き続き、「東京大空襲・戦災資料センター内山辺昌彦気付」です。

ニュースは、日本語版18、19、20号の3回、英語版16、17号の2回を発行する予定で、編集委員は山根和代・山辺昌彦・安齋育郎です。

来年の交流会は2007年11月の土曜日の午後と日曜日の午前・午後に、名古屋の「戦争と平和の資料館」で開催する予定です。交流会の準備も含めて事業を、事務局と関東在住の運営委員の池田恵理子・梶慶一郎・安田和也さんの協力で進めるとともに、適宜、名古屋の運営委員の野間美喜子さんと協議していきます。

交流会に先立ち11月11日(土)11時から12時までの日程で「女たちの戦争と平和資料館」の見学会を開催し、西野瑠美子館長に案内していただきました。参加は15名でした。

11日の18時から20時30分に、高田馬場駅前の「土風炉 高田馬場店」で懇親会を開きましたが、22名が参加しました。

12日午後には、希望者が「高麗博物館」や「しょうけい館」などを見学しました。

収支報告

収入

会費	142000円
カンパ	2000円
繰越	110455円
計	254455円

支出

送料	129040円
印刷・封筒代	27938円
雑費	1950円
繰越	95527円
計	254455円

会費内訳

03年度	2人	4000円
04年度	5人	10000円
05年度	13人	26000円
06年度	45人	90000円
07年度	2人	4000円
08年度	2人	4000円
09年度	1人	2000円
10年度	1人	2000円
計	71人	142000円

送料内訳

英文14号	72390円
日文17号	10340円
英文15号	46310円
計	129040円

繰越内訳

郵便振替	94630円
現金	897円
計	95527円

個人会員の会費納入状況内訳

2010年まで納付	2人
2008年まで納付	2人
2006年まで納付	41人

2005年まで納付	30人
2003年まで納付	8人
2002年まで納付	2人
計	85人
入会	3人
退会	7人
ニュースの発行	
英文14号	2006年 3月
日文17号	2006年 7月
英文15号	2006年 8月

### 海外のニュース

#### **世界平和博物館 (The Global Peace Museum) : 米国アトランタ**

市長の努力により、マーチン・ルーサー・キング師の歴史的文書がサザビーズ稀覯本競売会社から師の生地アトランタ市に移されることになりました。それを記念してここに世界平和博物館を設立したいと考えます。今年はガンジーの第1回平和活動から百年目、キング師の第1回平和活動から50年目の節目にあたり、アトランタの平和活動を発展させる絶好の機会です。市長を始め、ジョージア州政府の各首長にはぜひ共同設立者としてご協力をいただきたいと思っております。

アンドレア・ケイ・スミス  
(Partnerships in Peace共同設立者)

9月21日、国際平和デーにアトランタの平和団体“City of Peace”と“Partnerships In Peace”は国際平和博物館設立計画について記者会見をおこないます。これによってアトランタの世界的平和遺産はいつそう活性化し、平和の歴史に対する関心を高めることになるでしょう。アトランタは多数の外国企業、留学生が居住する国際都市で、海外にも名の知れた平和教育のためのセンターが3つあります。コレッタ・スコット・キングを生み、またノーベル平和賞候補者を3人も輩出しました。この国際的な平和育成の地で、世界平和博物館を発展させ

ていきたいと思っております。

[www.GlobalPeaceMuseum.org](http://www.GlobalPeaceMuseum.org) (作成中)

#### **イランにおける平和博物館**

オランダの Gerard Lossbroek さんよりメールがありました。

SCWVS (化学兵器による犠牲者を助ける会) はイラクの化学兵器攻撃によって被害を受けた5万人のイラン人犠牲者に対し医学的、社会的、法的、文化的支援を与える NGO です。SCWVS のもう一つの目的は非暴力文化の促進と、大量破壊兵器のない世界を作るために他の NGO 団体と提携して平和活動に従事することです。

イラン・イラク戦争は兵士、民間人の間に多大の被害をもたらしました。何千人もの犠牲者が化学兵器による攻撃で即死しましたが、それ以上の人びとが生き残り、長期にわたる皮膚や目の治療を受けています。毒ガスの治療は医学的にもまだ分からない部分があり、効果的な治療がないというのが現状です。大量破壊兵器による被害者グループや世界中の平和活動家が一体となって善意と幸せの力強いメッセージを広げることができればと思っています。

2006年4月には展示会をおこない、その後小さな平和博物館を作りました。戦争と大量破壊兵器の残酷さ、平和の重要性と平和の実現をする方法、平和活動の紹介、平和のための博物館国際ネットワークの紹介、戦争で被害を受けた所への案内、子どもの絵画教室と絵画展、毒ガス犠牲者との出会い、世界の人びととの交流などに取り組んでいます。

Shahriar Khateri M.D

Head, International relations branch & vice Director

Society for Chemical Weapons Victims Support SCWVS

19615-616 Tehran-Iran

Phone: +98 21 22417327

Fax: +98 21 22412502

email: khateri@scwvs.org

s\_khateri@hotmail.com

For more information visit:

[www.scwvs.org](http://www.scwvs.org)

## エジプトに平和博物館を

デイトン国際平和博物館館長のSteve

Fryburgさんからのメールによりますと、エジプトに平和博物館を創るために10月にカイロを訪問されたそうです。

カイロにあるアラブ連盟の本部で国際平和デーの取り組みに参加し、平和博物館を広めるためにさまざまな指導者と話をされたそうです。

今後カイロとアレクサンドリアで平和博物館を創る方向で援助をしていく予定です。まだこれから始まる段階ですが、中東の他の国にも平和博物館を広げていく考えです。

## 国際都市ハーグ：オランダ

JUDICAP(JUDicial CAPital)は、オランダのハーグが正義、平和、安全保障の国際的中心地であることを知らせるために2003年に歴史家のArthur Eyffingerによって作られました。移動展示物に興味がある方は、下記のホームページを御覧ください。

### JUDICAP

Sweelinckplein 21

2517 GM The Hague

Tel: +31 (0)70 - 3060040

Fax: +31 (0)70 - 3060039

Email: [arthur@judicap.com](mailto:arthur@judicap.com)

[www.judicap.com](http://www.judicap.com)

## 平和博物館：オーストリア

### FIRST AUSTRIAN PEACE MUSEUM

フランツ・ドイツ氏 (Franz Deutsch) の平和のリーフレットを下記のホームページで読むことができます。(ドイツ語、英語) 偏見と不信を取り除く、寛容の精神、外国人嫌い、平和でないのは対話不足？平和はユートピアではない、平和博物館とは何か？などの内容です。

Franz Deutsch, Graben 20, A-4902 Wolfsegg,

Tel. ++43-7676-7271

<http://www.friedensmuseum.at.tf/>

## 日本に強制連行された劉連仁さんの記念館 故郷の山東省高密市に完成

日本の中国侵略戦争当時、強制連行されて日本で働かされた劉連仁さんの記念館がこのほど、

故郷の山東省高密市に完成し、一般開放されました。

中日両国の友人たちが資金を出し合って、同市井溝鎮草泊村に建設したもので、展示室の総面積は158平方メートル。劉さんの遺品や対日訴訟の文字資料、写真、音声、映像などが展示されています。

落成式には日本の友人20人が出席し、劉さんの墓前に献花し、追悼しました。第2次世界大戦中、日本に連行されて働かされた人たちの生存者の代表、王子安、李良傑さんら10人も記念館を訪れ、見学しました。

劉さんは同村の出身で、1944年10月、日本軍によって日本へ強制連行され、北海道の明治鉱業株式会社昭和鉱業所で働かされました。虐待に耐え切れず、1945年6月に逃亡しました。日本人に見つかるのを恐れ、北海道の山奥に隠れ、13年間、野人のような生活を送りました。1958年に山中で猟師に見つかりました。

1958年4月、劉さんは祖国に戻りました。2000年9月2日、胃がんのために死去しました。享年87歳でした。

(済南9月3日発新華社より)

## 抗日記念館150か所に

【北京9月4日共同】抗日戦争勝利を伝える中国各地の記念館が4日までに、150か所に達しました。新華社電は記念館の展示内容について、関係者の発言を引用し「日本による中国侵略の暴挙を全面的に明らかにしている」と説明。150か所の詳細は不明ですが、北京市郊外の盧溝橋にある「中国人民抗日戦争記念館」、先月天津市で新館開館式典がおこなわれた「抗日殉難烈士記念館」などは代表的施設に当たるとみられます。

(『高知新聞』9月5日)

## 「刀を劔に」平和センター&ギャラリー：米国 デトロイト

しばらく休館をしていましたが、次のようにさまざまな取り組みを始めました。

8月9日：長崎に関する集会

9月19日 Milton Rogovin 写真展 (マッカーシズムでブラックリストに載せられた写真家の

作品展)

9月22日 Kitty Donohue のコンサート

9月21日: バザーで資金集め(本、宝石、レコード、CD など。ただし衣類と大きな家具は除く)

11月17日: Matt Watroba と Rev. Robert Jones のコンサート

連絡先: Swords into Plowshares Peace Center & Gallery ~ 33 E. Adams · Detroit · Michigan · 48226 ·

Tel: (313) 963 7575

<http://www.swordsintoplowssharesdetroit.org/index.htm>

Email: [swordsintoplowsshares@prodigy.net](mailto:swordsintoplowsshares@prodigy.net)

### イスラエルにおける平和博物館計画

イスラエルのエルサレムとテルアビブーヤッフォの間にある平和のオアシスという村ー

Neve Shalom-Wahat al Salam (NSWAS) (Oasis of Peace)ーで、今年「和解の部屋と和解の方法」という平和博物館建設のための取り組みが始まりました。「平和のオアシス」は1970年代初期にブルノ・ハサド氏 (Bruno Hasar) によって作られました。そこにはユダヤ人とイスラエル市民であるパレスチナ人が住んでいます。その学校ではユダヤ人とパレスチナ人の言語で両方の教育をしています。つまりヘブライ語とアラブ語で教育をし、周辺の9割の子どもたちが通っています。そこでは平和教育が推進され、平和のための学校が実現されているのです。また創設者である Bruno Hasard を記念したセンター(両方の文化を尊重)があります。その横に、「静かな家」(House of Silence) を作る予定です。「和解の部屋と和解の方法」という平和博物館建設の企画では、ドイツ、イスラエル、パレスチナに焦点を当てる予定です。「平和のオアシス」を創設した一人のレウヴェン・モスコヴィツ博士 (Dr. Reuven Moskovitz) は、イスラエル研究の旅の組織をし、ユダヤ人とパレスチナ人の和解、ドイツ人とイスラエル人の和解に長年取り組んでこられました。彼が平和博物館の企画に関わるようになっていきました。またドイツの平和博物館ー Pax Christi Augsburg peace museum Friedensraeume

(Peace Rooms) in Lindau/Germany, [www.friedensraeume.de](http://www.friedensraeume.de) ーが協力をする予定です。詳細の連絡先は次の通りです。

[info@nswas.org](mailto:info@nswas.org) [www.nswas.org](http://www.nswas.org).

### 寄稿・紹介

北朝鮮の核実験実施報道についての館長声明 (2006年10月10日)

立命館大学国際平和ミュージアム  
館長 安斎育郎

伝えられるところによれば、北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)は、2006年10月9日午前10時35分(日本時間)、北朝鮮北部地域において初めての核実験を実施したという。私はこの北朝鮮の暴挙に強い抗議の意を表明するとともに、世界最大・最強の核保有国であるアメリカ合衆国をはじめとする核保有国が、核兵器による安全保障という考え方を放棄し、すべての核兵器の廃絶に力を尽くすべきことを心から要求するものである。

(1) 日本の原爆被爆者をはじめとする世界諸国民の懸念をよそに、北朝鮮が核実験を強行したことに對して、満身の抗議の意思を表明する。それは単に北東アジアの平和と安全に更なる不安定要因を付加しただけでなく、核兵器保有を含む世界の軍事化の危険をいっそう増大させるものである。また、今次実験が、国連安全保障理事会の議長声明の警告をも無視して強行されたことは、国連を形骸化する単独主義的な行動であり、国連を軽視してイラク戦争に走ったアメリカ政府と同様の非難を受けなければならない。

(2) 今回北朝鮮がおこなったとされる核実験に関する情報は、なお多くの不確定要素を含んでいる。観測された地震波から推定されている爆発規模(マグニチュード)も、韓国3.58、日本4.9、アメリカ4.2などと大きな差があり、そこから推定される爆発の威力も0.1~16kt(キロトン)と不確定性をもっている(広島原爆: 16kt、長崎原爆: 21kt)。北朝鮮情報筋の「核実

験は成功した」との発表の正否を含めて、最終判断にはなお追加的な情報を必要とする。

(3) 今次核実験に伴う放射能汚染については、北朝鮮情報筋は「全くなかった」と報じているが、山岳地帯に掘られた横穴式の実験施設でおこなったとした場合、放射能封じ込めに重大な意味をもつ横穴の密閉度の完全性については判断材料がない。1963年の部分的核実験禁止条約以降におこなわれた723回の地下核実験のうち、想定外の放射能もれがあったケースは12回(1.65%)、放射性希ガスの漏洩を含めて後日放射能もれが検出されたケースが9回(1.24%)あったと伝えられており、当面、放射能もれの有無についても実証的な観測データによって見極めなければならない。

(4) 仮に核実験であった場合も、低威力の地下核爆発という性格からすれば、大量の放射能が環境中に放出されることは稀ではあるが、実証的な情報が少ない現状では、環境や食品の放射能汚染については継続的に監視し、科学的な判断を可能にする努力を惜しむべきではない。このようなケースでは、とりわけ日本海側の地域の海産物などについて風評被害が発生することも懸念されるので、厚生労働省および文部科学省が中心となって大気・海水・指標となる海産物や北朝鮮方面からの輸入食品を中心に放射能汚染の程度を把握し、気象研究所や放射線医学総合研究所において分析し、そのデータを公表すべきであると考え。

(5) 北朝鮮による今次核実験の結果、「油断のない隣国の存在」が印象づけられ、日本自身の核武装や自衛軍の憲法上の認知など、軍事化を求める国内世論を刺激する懸念がある。北東アジアの安全保障の問題は、たとえそれが困難であっても、6か国協議の延長線上に展望される北東アジア安全保障会議構想のような集団による協議機構による平和的協議を通じて解決することを基本とすべきであり、北朝鮮の今次核実験を機に日本の核武装化を含む軍事化の推進に走るような政策判断をおこなうべきではないと考える。

(6) 同時に、核兵器が拡散する背景には、とりわけアメリカが世界最大・最強の核保有国として、核兵器に依拠する安全保障政策をとって

いながら、他国による核兵器の開発・保有を認めないという、独善的な核兵器政策をとっている事実がある。この構図はしばしば、ヘビースモーカーの父親が未成年の息子に「喫煙は体に良くないからやめよ」と説教している構図に譬えられるが、根本的に矛盾しており、全く説得性をもたない。私は、アメリカを含むすべての核保有国の安全保障政策の抜本的な転換を引き続き要求するとともに、世界が核兵器廃絶のためにいっそう力を傾注すべきことを訴える。核兵器に固執する国家群はほんの一握りであり、国連においても圧倒的に孤立している。近年、新アジェンダ連合や中堅国家が非核イニシアティブを発揮してその影響力を広げ、世界のNGOも原爆被爆者たちとともに非核を求める声を高めつつある。私は、平和博物館がこうした声を飛躍的に強めるために貢献できるよう、いっそうの努力を続ける所存である。

(7) 日本国政府は、アメリカの拡大核抑止政策に依拠し、その「核の傘」に依存する安全保障政策をとっている。核兵器の使用を前提としているこのような政策は、核戦争の実戦被害を受けた唯一の被爆国の安全保障政策に最も相応しくないものであり、日本政府が国連総会の場で「核兵器使用禁止決議」に賛成せず、原爆被爆者に冷酷な援護政策をとる根本原因ともなっている。私は、日本政府が、核兵器に依拠した安全保障政策を放棄することこそが、北朝鮮を含む他国の核兵器保有を、及び腰ではなく、根本的に批判し得るための必要不可欠の条件であると確信する。

(8) 融和政策をとる韓国や、北朝鮮との間で国家権益上の利害関係を有する中国は、今次核実験によってある種の困難な政策判断を迫られている。それにもかかわらず、核戦争の実戦被害を受けた唯一の国民である日本国民は、核兵器の非人道性を徹底的に訴え、これらの国ぐにが北朝鮮の核保有はもとより、核兵器による安全保障という政治思想そのものを克服する努力を払うように精力的に働きかける必要があるものと確信する。

(9) 世界の平和博物館は、ヒロシマ・ナガサキの核兵器被害の実相を人びとに伝え、核兵器のない21世紀を創出するために共同して努力

する社会的責務があるものとする。立命館大学国際平和ミュージアムも、内外の平和博物館と力を合わせて、引き続きこの課題に取り組む決意である。

## 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

平和情報担当：伊奈俊信

次のような提案書を8月21日に平和博物館に出しました。

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館は貴館との共催による2007年度原爆展を提案します。

### 【前文】

第2次世界大戦の末期、1945年8月、広島と長崎に投下された2発の原子爆弾は、一瞬にして都市を壊滅させ、両都市あわせて20万人を超える人びとが命を落としました。一命をとりとめた被爆者にも、生涯癒すことのできない心と体の傷や放射線に起因する健康障害を残しました。

日本国政府は、これらの犠牲と苦痛を重く受け止め、原子爆弾で亡くなった全ての方がたを追悼するとともに、被爆の実相を広く世界中に伝え、永く後世までに語り継ぐことによって永遠の平和を祈念するため、広島と長崎の地に「原爆死没者追悼平和祈念館」を建立しました。

長崎祈念館は国際協力および交流の機能を有し、被爆の実相および被爆者の想いを広く世界に伝えるため、2005年より海外原爆展を開催しております。

この展示会を貴館で開催するにあたり下記のようなメリットがあります。

①被害実相を広く世界に伝える当展示会は、歴史的事実の紹介のみならず、子どもたちの平和学習にも深く寄与するものであり、貴国の文化的貢献となります。

②展示および広報にかかる費用は基本的に当館が拠出いたしますので、貴館の財政に負担をかけることはありません。

③数千名の来場者が見込まれますので来場者数の増加に寄与いたします。

④広報時に貴館の紹介をいたしますので知名度

の上昇につながります。

私たちは、この展示会を通して、戦争と核兵器の無い世界が一日にも早く訪れることを願っております。皆様とお会いできる日を楽しみにしております。

### 【これまでの開催場所】

開催年館名場所来場者数

2005年 シカゴ平和博物館

<http://www.peacemuseum.org/>

米国イリノイ州シカゴ市 3000名

2006年 核実験博物館

<http://www.atomicmuseum.org/>

米国ネバダ州ラスベガス市 5000名

2006年8月8日現在の推定

### 【展示内容】

展示会は下記の6つのコーナーで構成されております。

#### ①被爆者講話

展示会初日に開会式を開催いたします。その中で被爆者が招待者の皆さんの前で被爆体験講話を実施いたします。また開催期間中、学校やコミュニティ等での講話をおこないたいと思っておりますのでぜひご紹介下さい。

※被爆者および当館スタッフは1週間前後現地へ滞在いたします。

これまでの講話実施場所

#### 2005年

ケリー高校（シカゴ市）、ノースウェスタン大学（シカゴ市）、デポール大学（シカゴ市）

#### 2006年

コジン小学校（ラスベガス市）

#### ②写真パネルコーナー

1. 原子雲
2. 被爆直後の広島・長崎（パノラマ写真）
3. 原子爆弾の構造
4. 被害の概要
5. 被爆直後の様子
6. 熱線による被害
7. 爆風による被害
8. 高熱火災による被害
9. 人体が受けた影響
10. サダコと折り鶴
11. 廃墟からの復興
12. 今日の広島・長崎

13. 平和への祈り
14. 核時代のはじまり
15. 核抑止論
16. 広島・長崎祈念館紹介
17. 平和へのメッセージ

※この他にもパネルがございます。

### ③被災資料

被災資料とは被爆者が原爆を受けた際に身につけていた衣類や物品です。原爆の惨禍を物語る証拠となる資料です。広島市および長崎市から集められており、通常20点程度を展示します。

- ・ロザリオ（深堀一郎さん寄贈爆心地から500m）

原爆が投下されたとき、東洋一の規模を誇っていた浦上天主堂の礼拝堂で、「告解」の準備をしていた西田主任司祭と信徒十数人は、倒壊した天主堂の下敷きとなって全員死亡しました。後日、信徒が持っていたロザリオのうちわずか数点が収集されましたが、大部分は四散してしまいました。

- ・被爆瓦
- ・被爆時計（福本勝之さん寄贈爆心地から900m）

寄贈者の父親は被爆翌日の8月10日に救援列車に乗って長崎市に入りました。防空壕の中で見つかったこの時計は近くの廃墟で発生した火災により黒焦げになったと思われます。一帯全域が原爆の発する爆風と熱により壊滅しました。

### ④ビデオコーナー

アニメやドキュメントなど、来場者に分かりやすく原爆の実相を伝えるビデオやDVDを会場にて繰り返し放映します。

映像資料

- ・にんげんをかえせ
- ・ナガサキの少年少女たち
- ・広島祈念館広報ビデオ
- ・長崎祈念館広報ビデオ他

### ⑤折り鶴コーナー

折り鶴を折って集めることにより平和を祈る気持ちを通いあわせることができます。出来上がった折り鶴は展示会場で展示し、その後祈念館に持ち帰って追悼の祈りをささげる追悼空間にて奉安します。

### ⑥平和へのメッセージコーナー

来場者が展示場を見た後に各々感じた平和に対するメッセージを書くコーナーです。書かれたメッセージを展示場内で掲示し、展示会終了後、祈念館にて保管いたします。

#### 【よくある質問】

○運営および費用は？

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館が主催します。各コーナーの資料や映像、物品等の輸送及び広告に係る基本的費用については当館が負担いたします。

○こちらはどのような協力をしたらいいですか？

以下について御協力下さい。

- ・展示会場および開会式の会場確保
- ・展示物のレイアウト、展示用ショーケース、放映機器等の貸出
- ・広報方法の助言・補助
- ・展示期間中の会場における被災資料等の警備および保管

○どのくらいの期間展示をおこないますか？

約2週間から1か月です。

○展示会場及び講話会場はどのくらいの広さが必要ですか？

展示会場は60㎡程度あればおこなうことができます。講話会場は30人から50人が座るスペースがあれば結構です。

開催までの流れ

1. 展示をおこないたい旨を当館へ連絡
2. 当館とのやりとりにより展示会が可能かどうか決定（約半年前に最終決定）
3. 当館スタッフが現地にて展示・広報の打ち合わせ（約2～3か月前）
4. 開催パンフレット・展示用パネル等の製作（2か月前）
5. 貴館へパンフレット・パネル等を送付（1か月前）
6. 広報の開始（約1～2週間前）
7. 開会式参加者（講話者および当館職員）が現地入り（3日前）

ぜひ御連絡ください。

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館

〒852-8117 長崎市平野町7-8

電話+81-958-14-0055 Fax+81-958-14-0056



E-mail:info@peace-nagasaki.go.jp

## 被爆樹木～ 広島の声なき語り部たち～

木村 早苗

「歴史に目を閉ざすな」歴史学を学んでいた大学生時代に出会った言葉です。写真留学をしていたパリで、初めて広島原爆投下後の様子を伝える写真を目にした時、この言葉が再び私の心の中で強く響き出しました。日本人として、日本に起きた現実に向かい合っていなかったことに気づき、必ず自分自身の目で広島を見つめようと心に誓いました。直視するのが難しいと感じられることにきちんと向き合っこそ、過去から学び、より良い未来へ進んで行く力に変わっていきけるのだと信じているのです。

その後、不幸にもパリ留学は突然の終わりを向かえました。今まで手にしていた物を一度に全てなくしてしまったために人生に迷い、生きる意味と方向性が見つけられず苦しんでいたとき、パリで見た広島を思い出し、あらためて広島で自分なりの答えを見出したいと考えようになりました。

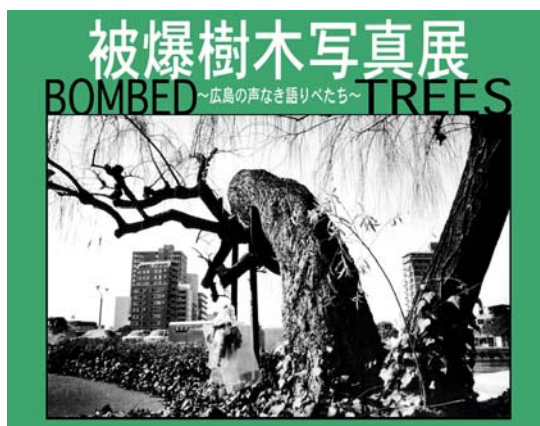
広島は、原爆投下後「75年間は草木も生えないだろう」と言われていました。しかし、春になると芽を出し、花を咲かせ、生き返った木々たちが人びとに生きる希望を与えたという話を知った時、強い生命の力と自然の偉大さを感じてとても感動しました。

原爆で傷ついた木々は、今も広島市内に現存しています。熱線に焼かれた跡をむき出しにしたままの木、はげしい爆風とその吹き返しによって爆心地の方向へ大きく傾いた木、大切に見守られ愛され続けたがついに枯死してしまった木など、さまざまな木々が今この広島で私たちとともに生き続けているのです。木々はそれぞれに違う表情を見せてくれます。そして、それぞれのやり方で命ある限り生き続けようとしているのです。木々たちは言葉にして語ってくれることはありませんが、声にならない平和への願いのメッセージを私たちに投げかけ続けているように感じます。その思いを写真に変えて伝えることが、私の平和への願いの形です。

この写真展を通じてたくさんの人びとに被爆樹木に対する理解を深めていただくとともに、生きる力の強さと命の大切さを感じとっていただきたいと思います。この世に存在するものは全て意味をもっており、そのことがすでに素晴らしいのです。「今、生きている」その事実を受けとめ、その命の尊さを考えるとき、私たちは愛につつまれていることに気がつくことでしょう。一人ひとりをつつひとつを大切に思いやる愛の目が世界へと向く時、その心が戦争と原爆の恐ろしさを改めて考え、平和を願う強い気持ちを生み出す原動力となることを願います。

<http://homepage.mac.com/sanaesprit8778/hibakuju/Menu23.html>

(写真)



「広島 オーストリア ウィーク」で平和運動の母、ベルタ・フォン・ズットナー女史の展示

広島オーストリア協会・田中勝邦

「ノーベル平和賞」の生みの親とも称され自らも同賞を受賞した、オーストリアの女流作家ベルタ・フォン・ズットナー（2ユーロ硬貨の肖像画に使用されている）の受賞100周年記念と「モーツアルト生誕250周年」にちなみオーストリアの芸術・文化・観光など総合的に紹介します。

日時：2006年11月9日(木)～11月14日(火)

6日間

場所：広島国際学院大学 立町キャンパス

広島市中区基町13-7 市内電車

「立町」電停前

主催：オーストリア大使館、広島オーストリア協会、広島国際学院大学

①オープニングセレモニー&ピアノコンサート

11月9日(木) 午後6時から モーザ駐日オーストリア大使ら出席による開会式。  
引き続き、モーツアルト曲のスペシャリストで国際的に活躍するピアニスト、リサ・中道さんによるピアノコンサート。

11月14日(火) 午後6時から モーツアルトアンサンブル コンサート

エリザベト音大大学院生による室内楽

ルタ・フォン・ズットナー展(期間中)

オーストリアの作家ズットナーのノーベル平和賞受賞100周年を記念し、ズットナーの平和への想いや功績、また、日本とのかかわりなどを紹介。(タペストリー19点)

◆講演会：「ズットナー女史の平和への想い」

11月13日(火) 午後6時から

講師：山根和代さん(高知大学非常勤講師、ズットナー文献翻訳者)

◆ズットナーの平和の想いにちなんだ学生による作品展示(期間中)

「平和のイメージ～ワインボトルのラベルデザイン～」

④毎年オーストリアのリンツで開催されているメディア・アートの世界的な国際フェスティバル“アルス・エレクトロニカ”(広島国際学院大学情報デザイン学科の教員と学生が毎年このイベントに参加している)の紹介とメディア・アートに関する公開講座。

◆公開講座「メディアアートとデザインの潮流」

11月10日(金) 午後5時30分から

学生及び教員による「アルス・エレクトロニカ」の報告会

◆公開講座「過程の形状—プロセスの持つ意味の姿」

11月11日(土) 午後2時30分から

講師：メディア・アーティスト 山田 亘(やまだこう)さん

作品展示(期間中)：「Specimen of Good-byes(さよならの押花)」/「南の夢」

◆公開講座「物理空間とWeb空間を重ね合わせる」

11月14日(火) 午後2時30分から

講師：メディア・アーティスト、渡辺英徳さん  
作品展示(期間中)：デモムービー「Net Robot」/「さくらマッピング」

シネマトーク「映画で見るオーストリア」

11月12日(日) 午後2時から シネマエッセイスト 鈴木由貴子さん

カルチャートーク「オーストリアの魅力」

11月11日(土) 午後5時から ウィーン在住政府公認ガイド イップ常子さん(広島出身)

なお、⑤及び⑥にはコーヒーとケーキ(バックンモーツアルト提供)を用意しますが数に限りがあり予約が必要です。

観光ポスターの展示や歴史、文化などを紹介するビデオ等を随時上映します。

問い合わせ：

広島オーストリア協会 082-221-4964(楠)

090-2008-0073(田中)

広島国際学院大学 立町キャンパス

082-212-1651

埼玉県立平和資料館の展示があぶない

—埼玉県上田清二知事の「従軍慰安婦」否定発言とその影響—

山本和美(アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」(wam)運営委員)

「邪魔するな」—上田知事からもらった言葉はただそれだけだった。

10月3日の午後、韓国の「慰安婦」被害者の李容洙(イ・ヨンス)さんと地元市民グループ(上田知事の「従軍慰安婦」否定発言を問う県民連絡会)は上田知事に会見を求めていた。しかし、知事は「大統領なら会ってやる」と面会を拒絶。

そのため、せめて議場に向かう知事に一言「歴史の生き証人」として挨拶しようと近づいたとき、知事は「邪魔するな」の一言だけ叫んで、足早に議場に入っていった。直後に予定していた記者会見に集まった記者らも現場を目撃し、翌朝の新聞にはこの暴言が報じられた。

その日の夜の集会で、李容洙さんは「あなた方に罪はない。こういう政治家がいると国民が

苦労しますね」と言ってくれた。集会コーディネーター役の西野瑠美子（wam館長）は「歴史の当事者である被害者の証言を尊重する姿勢こそが重要である」と上田知事の政治姿勢に苦言を呈した。会場の埼玉会館では、『従軍慰安婦』・平和資料館・アジアの未来を考える写真展」が同時開催され、wamからも約30枚ほどのパネルを貸し出して「慰安婦」制度の事実を伝える展示をおこなった。3日間で150名の人が見に来てくれた。

今回の李容洙さんの来日は、上田埼玉県知事が「従軍慰安婦」の存在を否定する発言を議会でおこなったことに端を発する。去る6月27日の埼玉県議会本会議で、自民党議員の埼玉県平和資料館に関する質問に答える形で、知事は次のような発言をした。「古今東西、慰安婦はいても従軍慰安婦はいない。民間の業者が連れていたりするのであって、軍そのものが連れていたりするわけは絶対はない」「自虐的な感情を出させることなく、真の史実、日本の正確な立場を学べるようにすることが大切だ」。

では、問題となった埼玉県平和資料館の展示内容は、というと、年表中に「1991年 従軍慰安婦問題など日本の戦争責任論議多発」という箇所のみである。それだけを取り上げ、「こうした間違った記述は修正しなければならない」と発言したのだ。直後から国内外から多くの非難の声があがったが、上田知事は懲りずに「軍に強制的に徴用された女性がいたという証拠はない」という「見解」を7月3日、報道機関に文書で発表した。

埼玉県平和資料館では急遽スケジュールを前倒しして7月25日に運営協議会が開かれた。それに合わせてwamからも知事への抗議文とともに、埼玉県平和資料館長宛に歴史事実を次世代に伝えていくよう要請文を送った。このような質問状や要望書は他団体からも届けられたが、運営協議会の委員が正式に要請した資料も含めて当日の資料にはとりあげられなかった。wamからも傍聴に参加し、館内を見学したところ歴史年表のなかの南京大虐殺の写真と記述が白い紙で覆い隠されていることもわかった。

これらの展示の記述などの個別課題については10月に開かれる予定の次回運営協議会に持

ち越しとなった。しかし、私たちがもう一つ懸念しているのは、開館13年を経て大幅リニューアルを検討中ということだ。記述の削除どころではなく展示内容そのものがガラリと方向転換する可能性もある。歴史教育の場として、公立の平和資料館の展示内容は世の中への影響力が大きい。平和資料館を運営する私たちとしても、今後の動きをさらに注視していく必要がある。

## WAMの特別展パネルを使って、企画展を開きませんか？

2005年8月にオープンしてから、アクティブ・ミュージアム「わたちの戦争と平和資料館」(wam)では3回の特別展を開催してきました。第1回は「女性国際戦犯法廷のすべて」展、第2回は「松井やより 全仕事」展、第3回は「置き去りにされた朝鮮人『慰安婦』」展です。

特別展パネルはすべて貸し出しています（「置き去り」展の貸し出しは11月12日以降）。これらのパネルを使って、空いている企画展スペースや、学校・地域の公民館で企画展を開きませんか？

特別展パネル・パッケージは、それぞれ標準がA1サイズで約30枚、2週間まで5万円+送料です。パネルの見本はwamのウェブに載っているのでご覧ください。費用・期間などご相談に応じますので、ぜひご活用ください！

問い合わせ：アクティブ・ミュージアム「わたちの戦争と平和資料館」

〒169-0051 新宿区西早稲田2-3-18 AVACOビル2F

Tel03-3202-4633 Fax03-3202-4634

[info@wam-peace.org](mailto:info@wam-peace.org)

[URL:www.wam-peace.org](http://www.wam-peace.org)

## 平和資料館・草の家：高知

高知から世界へ、平和の波を！

—「ピースウェイブ 2006 in 高知」

事務局長 金英丸

草の家が事務局を務めている夏の平和行事

「ピースウェイブ 2006 in 高知」(7月1日―8月26日)が、次の内容でおこなわれました。

- ピースウェイブスタートの集い
- 第24回平和七夕まつり  
: 子どもたち、市民が平和の願いを込めてつくった百万羽の折鶴が高知の街を飾る
- 第28回戦争と平和を考える資料展
- 高知空襲犠牲者追悼会
- 第23回反核平和コンサート  
: みんなで唄う平和のうた声!
- 第12回アジアの人びとが連帯する集い  
: 中国の毒ガス被害者を描いたドキュメンタリー映画「にがい涙の大地から」の上映、海南友子監督との対話
- 第10回びーすウォーク in こうち
- 第23回平和美術展  
: 「九条の風を吹かそう」をテーマに
- 野田正彰氏講演会
- 第23回平和映画祭  
: 映画「イノセント・ボイス: 12歳の戦場」の上映

7月4日、高知空襲の日を前後に開かれる「戦争と平和を考える資料展」が第28回目を迎えました。

今年は地域の平和問題として、「高知城跡の遺跡から見た高知空襲」、南国市の文化財として指定された「高知の戦争遺跡：前浜掩体群」を取りあげました。

「高知城跡の遺跡から見た高知空襲」のコーナーでは、高知城跡から発掘された高知空襲の戦災遺物が展示されました。現在マンション建設の予定地になっている高知城跡の堀から、高知空襲で焼けた子どもの自転車や崩れた建物の瓦礫(がれき)などが去年の発掘を通して多く見つかりました。中には温度を高めながら熱を加えた実験瓦と空襲で赤く焼けた瓦の色を比べる展示もありました。灰色の瓦が赤くなるには800～900度の高温で6時間以上を熱しなればならない。いかに激しい空襲だったかを物語っています。

「高知・空襲と戦災を記録する会」と草の家は、空襲の戦争遺跡を保存する運動の一環とし

て今年の展示を企画しました。これからも高知城跡の遺跡を戦争遺跡として保存する運動を広めて、貴重な平和教育の場として残さなければなりません。

東アジア・世界の平和問題としては、韓国・朝鮮民主主義人民共和国・日本の子どもの絵を集めた「南北 코리아 と日本のともだち展」と「イラク、占領下の子どもたち一写真・絵画展」が合わせておこなわれました。

「南北 코리아 と日本のともだち展」は2001年から毎年平壤やソウル、東京などで開かれ、高知では初めてでした。特に、日本ではあまり知らされてない朝鮮民主主義人民共和国やイラクの子どもたちが描いた作品が子どもの写真とともに展示され多くの感動を呼びました。観覧者の感想を紹介します。

ありがとうございました。子どもたちの絵を展示していただき大変嬉しく思いました。南北 코리아 の子どもたちの絵は明るい子どもたちの絵でして癒されますね。イラク占領下の子どもたちの絵も暗い中に希望がありました。(80才、女)

みんな絵が上手い。リアルだし、色づかいもきれいだし。日本の子どもとあまり変わらない。(15才、女)

怖い思いや悲惨な体験を子どもたちの上にくり返させてはならないと各国の子どもたちの絵を見て感じました。(49才、女)

どの国の子どもも可愛い笑顔。世界に平和を戦争は反対。(70才、女)

## 岡まさはる記念長崎平和資料館

理事長 高實康稔

10月現在、最近の主な活動と今後の活動予定をお知らせします。

8月8日、英国から Peter Van Den DUNGEN 博士(Bradford 大学教授、平和学)が来館され、翌9日、長崎原爆朝鮮人犠牲者追悼早朝集会において感銘深い追悼メッセージを発表してくださいました。私たちの平和資料館が国際的にも認知されつつあるのを実感し、大

きな励みとなりました。

9月1日、ドイツから良心的兵役拒否者ヤネク・パウル・ダンさん(19歳)が当資料館での代替役務(11か月)を開始しました。2年前の訪日が契機となり、彼の希望に基づいてドイツ政府が代替役務の仕事場として認可した結果、実現しました。資料館スタッフはもとより、市民からも温かく迎えられ、日独の平和観の違いを考えさせる実在として早くもさまざまな交流が始まっています。彼の生活支援の募金も好スタートを切りました。

10月27、28日、北京の中国人民抗日戦争紀念館の訪日団(館長はじめ7名)が長崎をも訪問され、原爆資料館と私たちの平和資料館を主な訪問先とされています。日本の首相交代によっても日中関係の改善は予断を許さず、更なるナショナリズムの台頭が懸念されるなか、民間の日中友好の拡大と深化に少しでも貢献したいと願っています。

11月23日、第12年度総会を開催します。その日程が動かさないことから、第731部隊罪証陳列館との友好提携事業として企画されていたハルビン訪中団の派遣は見送ることになりました。来年の春か秋に必ず実現したいと思っています。

今年の南京大虐殺幸存者証言集会は12月9日の予定です。今回は研究者の同伴はなく、その代わり今夏の「希望の翼」訪中団のメンバーやヤネク・ダンさんが幸存者と語り合う場面を設定して、例年にも増して南京と長崎を結ぶ交流の場にしたいと考えています。

1～3月は特に大きな企画はありません。最近、長崎への修学旅行生の減少から当館の入館者もやや減少していますが、逆に大人の入館者が増える傾向が見られます。この傾向を大切にするにはどうあるべきか思案しているところです。

## 第40回原爆忌全国俳句大会

事務局 島野由利子

立命館大学国際平和ミュージアムを事務局として開かれている原爆忌全国俳句大会は40回

目を迎え、奥田雅子さんを顧問、青倉人士さん、木田千女さん、谷川躬さんを代表委員、安齋育郎さんを実行委員長として準備してきました。後援団体は、京都府、京都市、口語俳句協会、新俳句人連盟、京都俳句作家協会、朝日新聞社、毎日新聞社、京都新聞社、京都民報社および立命館大学国際平和ミュージアムです。

日本語部門、英語部門とも、4月に「開催要項」を発送、俳句結社に俳誌への掲載をお願いし、7月15日締め切りで献句を募りました。日本語部門には177名から697句、英語部門に16か国133名より133句が献句されました。

日本語俳句部門については、例年通り、献句をコンピュータに入力し、乱数処理をして順序をバラバラに並べ換えて『献句集』を作成、選者および献句者に送って、8月19日締め切りで選句して頂きました。選者には15句、献句者には20句を限度に選んで頂き、選者の選句は1句2点、献句者については1句1点で集計しました。合計点の高い順に、大会賞、京都府知事賞、京都市長賞、口語俳句協会賞、新俳句人連盟賞、京都俳句作家協会賞、朝日新聞社賞、毎日新聞社賞、京都新聞社賞、京都民報社賞を、続く10句に平和賞、さらに10句に折鶴賞を授与します。今年から、「選者特選句部門」を設けました。

献句者自身が選句もするのが、この大会の特徴の一つですが、この俳句大会に初めて参加された方から、「このように選をするのは初めてですが、皆さんの句を拝見することができ、とてもよい手法だと思いました」というコメントが寄せられました。選句には献句者の9割以上参加しました。

海外俳句は、昨年同様、スティーヴン・ギルさん(立命大)、ステファン・ウルフさん(龍谷大)および安齋育郎、重本泰彦の両氏を選者とし、それぞれに特選句2句、それに続く秀逸句5句を選んでいただきました。その結果をもとにグランプリ1句、国際平和ミュージアム賞2句を決定しました。選者の重本さんについては、米国のジャーナリストによって、著書『わたしのヒロシマ俳句』のドキュメンタリー映画が作成されつつあります。重本さんは9月16日～17日に開かれる「人間精神の回復のための詩人国際集会」に出席し、原爆忌全国俳句大会の入選句

を紹介しします。

記念講演では長崎の下平作江さんに大変重いお話を伺うことができました。あのような悲惨な体験が繰り返されることのないよう、知恵と力を出し合いたいものです。下平さんは国内だけでなく海外にも出かけ、その悲惨な体験を語り継いでいます。

以下に英語俳句部門の入賞作品を紹介しします。( )内は安齋さんによる参考訳。

〈グランプリ〉

They wrecked the bridges

one by one --- I still pray

by the river

(壊されし橋 ほとりに捧ぐ わが祈り)

Svetlana Bjelica (セルビア・モンテネグロ)

〈国際平和ミュージアム賞〉

Crater of grenades:

tonight I flinch at moonlight

on pond lilies

(榴弾孔 われ蓮月に たじろぎぬ)

Doreen King (イギリス)

peace prayer

a paper fan stirs

the stillness

(平和祈る 静寂〈しじま〉を乱す 扇かな)

Tom Painting (アメリカ)

## 国内ネットワークのニュース

### 太平洋戦史館：岩手

『戦史館だより』56号によると、『軍縮問題資料』8月号の特集「戦争を語り継ぐ」に岩渕宣輝さんが執筆されています。

戦跡調査の積み上げが、政府派遣遺骨収集へ繋がってきています。2005年8月東京新聞の記事を現地へ案内。そのスクープがその後の遺骨収集事業に大きな影響を与え、2006年1月には戦史館から3名がジャヤプラ ビアクの遺骨収

集に参加しました。(『戦史館だより』57号より)

Tel: 0197-52-3000 Fax: 0197-52-4575

### アウシュヴィッツ平和博物館：福島・白河市

1940年、ナチスの迫害を逃れて国外脱出を望むユダヤ人にビザを発給した杉原千畝・リトアニア総領事代理の特別展が2006年10月4日～12月28日にアウシュヴィッツ平和博物館で開催されています。11月4日にはホテルハマツ(郡山市)で映画と講演の会が開かれ、【第1部】では「日本のシンドラー杉原千畝物語」(反町隆史、飯島直子主演 読売テレビ制作)が、【第2部】では、杉原ビザで救われて日本経由でアメリカに脱出したシルビア・スモーラさん(アルバート・アインシュタイン医科大学教授)の特別講演「私を救ったビザ」がおこなわれました。

スモーラさんはこれに先立つ11月3日、立命館大学国際関係学部の平和学の授業(担当:安齋育郎・国際平和ミュージアム館長)で約150人の学生や市民を前に講演、学生からは次々と英語で質問が出されました。

Tel: 0248-28-2108 Fax: 0248-21-9068

<http://www.am-jor.jp/index2.htm>

### 埼玉県平和資料館：東松山市

テーマ展Ⅱ「戦時の装いーそのとき日本人は何を着ていたか」が企画展示室で2006年7月22日～9月24日の会期により開催されました。展示では、戦時下の服装統制があっても、それが貫徹していなかったことを強調していました。図録を刊行しています。

2006年度第1回の戦争体験者との交流会が2006年8月13日に開かれ、講師の黒田千代吉さんが「初年兵行軍の経験」と題して話しました。

ホームページで「これからも平和資料館は戦争の悲惨さと平和の尊さをうったえ続けます。」とのメッセージを出しています。

Tel: 0493-35-4111 Fax: 0493-35-4112

<http://homepage3.nifty.com/saitamapeacemuseum/>

### 丸木美術館：埼玉・東松山市

2006年度第2回企画展「今日の反戦展2006」が2006年9月9日～2006年10月21日の会期で

開催されました。2005年夏、銀座・地球堂ギャラリーで20年以上続いた〈戦争展〉を、丸木美術館に移して再編した〈今日の反戦展〉を恒例化したもので、その2006年版です。

Tel:0493-22-3266 Fax:0493-24-8371

<http://www.aya.or.jp/~marukimsn/top/kikaku.htm>

#### 蕨市立歴史民俗資料館：埼玉

夏の企画展「第17回平和祈念展 戦中から戦後へ」が2006年8月1日～31日の会期で開催されました。悲劇を繰り返さないために、戦争という事実と記憶を次世代に伝えるために開かれたものです。展示は、「15年戦争の時代」「作家が語る8.15」「新聞報道に見る終戦前後」「引揚の苦難」「戦後の人々の暮らし」などについて展示し、当時の新聞、召集令状・千人針・日の丸寄書などの出征関係資料、紀元2600年関係資料、伝単、灯火管制具、引揚関係資料、墨塗り教科書、新憲法関係資料、代用品、ジュラルミン製品、カストリ雑誌などを展示していました。解説のリーフレットを発行しています。

Tel:048-432-2477

<http://www.city.warabi.saitama.jp/rekimin/index.htm>

#### 国立歴史民俗博物館：千葉・佐倉市

特別企画「佐倉連隊にみる戦争の時代」が7月4日～9月3日の会期で開催されました。連隊史の展示で、連隊と地域との関わりと、参加した戦争の実相を描くものですが、兵士の戦死と軍隊の中での苦労なども展示し、日清戦争における旅順虐殺など加害の展示も努力していました。図録を刊行しています。

Tel:043-486-0123

<http://www.rekihaku.ac.jp/>

#### 東京大空襲・戦災資料センター：東京・江東区

センターの付属として、吉田裕さんを室長に、戦争災害研究室をつくり、2006年6月から月1回の研究会を開催し、研究会での報告要旨や討論概要を載せた『戦争災害研究室だより』を毎月発行しています。

第1回研究会は、2006年6月11日に政治経済

研究所で開催し、山本唯人さんが「空襲研究における戦略・地域・個人間関係の再検討—大岡聡・成田竜一『空襲と地域』を読む」と題して報告し、大岡聡さんのリプライもありました。

第2回研究会は、2006年7月9日に一橋大学で開催し、山本唯人さんが「東京大空襲時の民間救護」と題して報告しました。

第3回研究会は、2006年8月9日に日本大学法学部で開催し、植野真澄さんが「傷痍軍人研究としょうけい館の展示について」と題して報告しました。

第4回研究会は、2006年9月4日に東京大空襲・戦災資料センターで開催し、鬼嶋淳さんが「1970年代における空襲・戦災記録運動の展開—『東京空襲を記録する会』を中心に」と題して報告しました。

第5回研究会は、2006年10月31日に東京大空襲・戦災資料センターで開催し、青木哲夫さんが、伊香俊哉さんの論文「戦略爆撃から原爆へ—拡大する『軍事目標主義』の虚妄」（『岩波講座 アジア・太平洋戦争』5所収）を論評し、伊香俊哉さんのリプライもありました。

Tel:03-5857-5631 Fax:03-5683-3326

<http://www9.ocn.ne.jp/~sensai/>

#### 都立第五福竜丸展示館：東京・江東区

特別展「ベン・シャーンの第五福竜丸展」が2006年9月20日～11月20日の会期で開催されています。アメリカの画家ベン・シャーンは第五福竜丸・ビキニ事件を連作で描いたラッキードラゴン・シリーズ11点と素描30点余を遺しました。2006年秋『絵本・ここが家だ—ベンシャーンの第五福竜丸』（絵ベン・シャーン、文・構成アーサー・ビナード、装丁和田誠）の発行（集英社刊）とタイアップした特別展です。展示は船体に沿い絵本の1ページ1ページをたどる26点と第五福竜丸平和協会所蔵の素描原画7点、甲板上にも複製を展示します。（原画展示は10月15日まで）関連して、10月7日にアーサー・ビナードの講演会が開催されました。

Tel:03-3521-8494 Fax:03-3521-2900

<http://d5f.org/>

#### 高麗博物館：東京・新宿区

特別展示「日本政府が謝罪するまで死なないぞ！ー在日一世 徐元洙さんの82年」が2006年8月12日～10月15日の会期で開催されました。

Tel:03-5272-3510 Fax:03-5272-3510

<http://www.40net.jp/~kourai/>

#### 昭和のくらし博物館：東京・大田区

「小泉家に残る戦争展2006」が2006年8月1日～9月3日の会期で開催されました。

「戦争はいけない」と言いつづけるために開館以来毎年8月に開催している展示会です。絵日記・軍事郵便・千人針・代用品・寄せ書き・もんぺなどを展示していました。

Tel.&Fax:03-3750-1808

<http://www.digitalium.co.jp/showa/index.html>

#### 八王子市郷土資料館：東京

特別展「市民の記録した戦後の八王子」が2006年8月1日～9月10日の会期で開催されました。特別展は写真展で、中学校の先生だった淵上明さんが1946年3月から8月にかけて撮影した八王子市内の空襲による焼け跡の写真を主に展示したものです。淵上さんが作図した手書きの略図とともに、資料館で制作した解説と、撮影位置を示す地図と、現代の同じアングルの写真とを、加えて展示していました。付録として奥住喜重さんの提供による、空襲から45日後の9月15日にアメリカ軍が撮影した、八王子の町の写真も展示されました。図録『焼け跡からの出発』を刊行しています。

関連して講座「戦争と市民生活」が郷土資料館学芸員を講師として2階集会室で開かれました。第1回は「戦時下の市民生活」で9月9日に、第2回は「戦時下の食生活」で9月16日に、第3回は「八王子空襲と戦後の復興」で9月23日にそれぞれ開催されました。

Tel:0426-22-8939

<http://homepage3.nifty.com/hachioji-city-museum/>

#### 福生市郷土資料室：東京

特別展示「平和のための戦争資料展」が2006

年7月1日～10月1日の会期で開催されました。近代戦争の始まりである日清戦争から、太平洋戦争までの歴史を、福生地域の郷土資料を通じて紹介していました。戦時下の資料としては、軍事郵便、千人針・のぼりなど出征兵士の関係資料、戦時下の子どもの生活用品、家庭用品購入通帳、妊産婦手帳、2.26事件関係の号外、防空日誌、罹災証明書、家屋焼失証明書、防毒面、焼夷弾などを展示していました。また、「福生を中心とした軍資施設と戦災地図」とともに、多摩飛行場（福生飛行場）などの旧日本軍の関係では、アメリカ軍横田基地内にあった建築物資料・出土資料、無線機、壺、整備工具、地図などを展示していました。

Tel:0425-53-3111

<http://www.city.fussa.tokyo.jp/town/m005/32iopi0000004uv7.html>

#### 東大和市立郷土資料館：東京

写真パネル展「多摩の戦跡」が1階ロビーで、2006年8月4日～31日の会期で開催されました。「展示写真一覧」と「多摩の戦跡 所在マップ」を作成し配布していました。

Tel:042-567-4800

<http://www.e-yamato.or.jp/city/museum/>

#### 明治大学博物館：東京・千代田区

第1回明治大学大学史資料センター企画展「明大生と学徒兵」が2006年7月1日～8月19日の会期で開催されました。これは明治大学の学徒兵をテーマに、第1回学徒出陣となった一人であり、戦場に消えた武石益則（政治経済学部）さんの資料を中心に、大学史資料センターの所蔵資料を紹介したものです。

Tel:03-3296-4448 Fax:03-3296-4365

<http://www.meiji.ac.jp/museum/>

#### 駒沢大学禅文化歴史博物館：東京・世田谷区

大学史展示室特集展5「戦争と大学」が2階大学史展示室で、2006年7月3日～9月29日の会期により開催されました。戦時中、駒沢大学に在学していた愛知県の榊原克巳さんが使用していたゲートルと柔剣道の授業用手袋、学徒出陣で出征する中西道瞻さんのため、駒沢大学の



教員であった衛藤即応・沢木興道・榎林皓堂が寄せ書きした日章旗、勤労奉仕の告示、徴兵検査終了学生への告示などの資料と、校庭での軍事教練、教員・学生の出征を祝すポスターが掲示されている掲示板、軍需省のトラックに乗り込む学生、小林君の出征、神宮外苑学徒壮行会などの写真を展示していました。

Tel:03-3418-9610 Fax:03-3418-9611

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~zenbunka/>

#### 神奈川県立地球市民かながわプラザ：横浜市

企画展「地球108の顔ーインゴ・ギンター氏によるWorldprocessor展」が3階企画展示室で2006年9月30日～11月3日の会期により開催されています。これは、現在・未来の地球が抱える108の問題を表現した108の地球儀を展示するものです。

Tel:045-896-2121 Fax:045-896-2299

<http://www.k-i-a.or.jp/plaza/>

#### 日本新聞博物館：神奈川・横浜市

企画展「昭和史の風景ー江成常夫写真展『偽満洲国・鬼哭の島』・神奈川新聞は『戦争』をどう伝えたか」が企画展示室で、2006年8月1日～9月24日の会期で開催されました。関連して、9月17日に江成常夫さんによるギャラリートークが開催されました。

Tel:045-661-2040 Fax:045-661-2029

<http://www.pressnet.or.jp/newspark/>

#### 川崎市民ミュージアム：神奈川

企画展「名取洋之助と日本工房[1931-45]ー報道写真とグラフィック・デザインの青春時代」が企画展示室で2006年7月8日～9月3日の会期により開催されました。これは、2006年2月11日～3月26日の会期で福島県立美術館からはじまった巡回展です。

Tel:044-754-4500

<http://www.kawasaki-museum.jp/>

#### 平和文化史料館・ゆきのした：福井

7月15～17日に福井空襲大絵図展（縦2.4m、横50m）を福井県民会館でおこないました。その説明がホームページに次のように紹介されて

います。

太平洋戦争末期の1945年7月19日夜、福井市内をB29の大群が襲撃し、福井市街の96%が焼失、市民約1600人あまりが犠牲になった。あれから61年一。空襲の日を間近に控え、改めて戦争の惨禍と奪われた命の重み、犠牲者の叫びに思いを馳せ、ありふれた日常の価値と、その土台となる平和の大切さを意識する機会としたい。

福井空襲大絵図は、戦後40年を記念して1985年に、当時のゆきのした文化協会の20～30代の会員が中心となって制作した。戦争を知らない世代が、戦争を知らない世代に向けて、平和のメッセージを贈るコンセプトで、制作にあたっては、体験者の声を聞き、資料に目を通した上で、想像力をふくらませて空襲当夜をなるべく事実に即して描くよう心がけた。

大絵図は高さ2.4メートル、全長50メートル。福井駅前、だるやま百貨店前（現福井西武前）、九十九橋など6場面に分けて、空襲で逃げまどう福井市街地の市民の姿などを描いた。これまで各種イベントで一部の場면을展示してきたことはあったが、今回、1985年の初公開以来、21年ぶりに全場面を公開することにした。

（『館報』no.166 2006.6.26発行より）

Tel & fax: 0776-52-2169

[info@yukinoshita.net](mailto:info@yukinoshita.net)

#### 長野県立歴史館

秋季企画展「戦時下の子どもたちー信州の15年戦争」が2006年9月30日～11月12日の会期で開催されました。

Tel:026-274-2000 Fax:026-274-3996

<http://www.npmh.net/>

#### 松代大本営の保存をすすめる会：長野

2006年度マツシロ学習会として、6月24日近藤泉さんの「中国人聞き取り調査報告」をしていただき、10月28日宮沢彰一さんの「ヒトラーと白バラの仲間」、11月25日幅国洋さんの「憲法を学ぶ」を予定しています。詳細は、ニュース『保存運動』を御覧ください。

Tel & Fax: 026-228-8415

<http://homepage3.nifty.com/kibonoie/>

[kibonoie@jifty.com](mailto:kibonoie@jifty.com)

## 静岡平和資料センター

企画展「清水空襲と艦砲射撃の原画展」が2006年7月7日～2006年10月8日の会期で開催されました。清水空襲と艦砲射撃の惨状を描いた市民の体験画20余点と岡町八幡神社の戦災にあった大楠などを展示しています。また、「川柳で詠む戦争体験といま」「戦争体験が生んだ日本国憲法」などの展示コーナーもあります。

Tel:054-247-9641 Fax:054-247-9641

<http://homepage2.nifty.com/shizuoka-heiwa/>

## 戦争と平和の資料館（仮称）：愛知

2月19日「NPO平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会」理事会が開かれ、

- ①資料館の基本プランと設計者の選定について
  - ②施設のネーミングについて
  - ③募金の開始時期と方法について
- 討議されました。

2月26日 田淵英之さん(南区在住)所蔵の戦争関連の実物資料をデジカメに収録。これらの実物(軍服・ヘルメット・写真・戦時ポスターなど...)をもとにホームページを開設しました。

3月6日 立命館大学国際平和ミュージアム学芸員の山辺昌彦さんを招いて、この平和・戦争資料館の基本構想や展示の仕方などについて助言を受け、意見交換しました。

2月～3月 次の各展示プロジェクト・チーム毎に検討会を開催しました。

### ①あいちの空襲班

15年戦争の全体像班

### ③戦時下の暮らし班

### ④現代の戦争班

4月1日 「戦争と平和の資料館」(仮称)『建設ニュース』 NO.1 発行

5月14日 「NPO平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会」第6回理事会を開き、

第4回定期総会(5/14)提出議案について

健康業者の選定方法について

募金委員会の設置について

話し合いました。

5月25日 「戦争と平和の資料館」(仮称)『建設ニュース』 NO.2 発行

5月26日 第1回「街頭募金」活動をしました。

5月～8月 この間、月1回「事務局会議」を開催しました。

また、建設・資金・広報など各プロジェクト・チームの会議が随時開催されました。

8月より全体の企画・状況把握のため「総務」チームも発足。

6月29日 「NPO平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会」第4回定期総会を開催しました。

8月10日 「戦争と平和の資料館」(仮称)『建設ニュース』 NO.3 発行

9月22日 「戦争と平和の資料館」(仮称)『工事ニュース』 NO.1 を発行しました。

(<http://www.memorial-aichi.jp/aumi.htm>より)

Tel:052-962-0136 Fax:052-962-0138

Email: [npo@memorial-aichi.jp](mailto:npo@memorial-aichi.jp)

## 四日市市立博物館：三重

学習支援展示「四日市空襲と戦時下の暮らし」が2006年6月17日～8月20日の会期により常設展示の中で開催され、実物資料・写真パネル・模型などが展示されました。

Tel:0593-55-2700 Fax:0593-55-2704

<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/museum>

## 銅鑼博物館：滋賀・野洲市

平和に関するテーマ展「女性たちの昭和史—高木婦人会文書」がエントランスホールで、2006年7月20日～9月3日の会期により開催されました。野洲市高木には、婦人会の1926年の発足時からの記録が伝えられており、これらの資料の中から地域婦人会の活動のあゆみや戦時下の活動を伝える史料を紹介するとともに、千人針や婦人会のたすきなどの戦時資料を展示していました。

Tel:077-554-2733 Fax:077-554-2755

<http://www.city.yasu.shiga.jp/map/24.html>

## 栗東歴史民俗博物館：滋賀

テーマ展「平和のいしずえ 2006」が2006年7月23日～8月27日の会期で開催されました。「平和のいしずえ」展は、市民から提供された資料により、栗東の人びとが経験した戦争や

戦時下の生活をたどり、戦争と平和について考える趣旨の展示会です。本年度は戦時下に作られたポスター類を特集していました。徴兵令、日清・日露戦争から展示しており、15年戦争期の、代用品、焼夷弾、婦人会のたすき、衣料切符、紙芝居、慰問絵葉書、記章、除隊記念盃なども展示していました。今年は図録が刊行されなくて、展示資料リスト付リーフレットのみ刊行されました。

Tel:077-554-2733 Fax:077-554-2755  
<http://www2.city.ritto.shiga.jp/hakubutsukan/>

#### 浅井歴史民俗資料館：滋賀・長浜市

企画展「終戦記念展―応召先の敦賀連隊」が学習館1階で2006年7月23日～8月27日の会期により開催されました。主な展示品は、戦没者の遺品・入営者の資料などの敦賀連隊関係資料、被災品などの敦賀空襲関係資料、戦場の郵便配達員赤たすき、出征直前に家族にあてた手紙、安明寺の学童集団疎開関係資料、戦時中の嫁入道具、荷車、墨塗り教科書、紙芝居、子どものおもちゃ、代用品、生活用品などです。戦争体験の証言も展示していました。

2003年度企画展「終戦記念展―子どもたちに伝えたい戦争の記憶」と2004年度企画展「終戦記念展―父帰る戦争の記憶」の図録が刊行されました。

Tel:077-554-2733 Fax:077-554-2755  
<http://www.city.nagahama.shiga.jp/>

#### 近江日野商人館：滋賀

第19回「日野と太平洋戦争」展が2006年8月1日～30日の会期により開催されました。学校生活・兵隊送り・遺骨迎え・避難訓練・防火訓練・勤労奉仕・服装・食べ物など戦時中の子どものくらしを伝える土人形や絵、教科書、教育勅語、双六、中等学生の学徒勤労動員・軍事教練関係の資料、日の丸寄せ書き・千人針・奉公袋・赤たすきなどの出征兵士の資料、たすきなどの婦人会の資料、代用品、配給品、衣料切符、灯火管制具・メガホン・防空頭巾・防毒面・救急袋・空襲警報の表示板などの空襲・防空関係の資料などの物とともに、兵隊送り、遺骨迎え、忠魂碑、防空演習、勤労奉仕、大阪か

ら日野にきた疎开学童などの写真、そして遺書・遺品ともに地区別の戦没者数の図表が展示されました。これらの資料や写真を通して、大きな犠牲を払った太平洋戦争によって、日野の人がどんな生活をしいられ、どんな苦労を経験したかを伝えて、非人道的な過ちを繰り返さないようにし、平和への思いを確かなものにするために開かれたものです。

関連して8月12日に「戦争体験を聞く会」が開かれました。中野千代子さんが「戦死した息子を思う母の心」を、山村辰雄さんが「九死に一生の奇跡 戦場の青春」を、松田喜代さんが「戦時中の小学校 運動場が甘藷畑に」を、若林憲秀さんが「私の戦時体験」を、それぞれ語りました。

Tel:0748-52-0007 Fax:0748-52-0172  
<http://www.town.hino.shiga.jp/hino-s/>

#### 立命館大学国際平和ミュージアム：京都市

特別展「百二十二名の絵手紙―漫画家たちの私の八月十五日展」が2006年6月20日～7月20日の会期により、1階の中野記念ホールで開催され、戦前、戦中、戦後の厳しい時代を生き、戦争を肌で感じた漫画家たちの作品が展示されました。関連して、記念講演会「昭和二十年八月十五日の思い出話」が、2006年6月25日に立命館大学衣笠キャンパス創思館のカンファレンスルームにおいて開催され、漫画評論家の石子順さん、漫画家の森田拳次さん、漫画家の花村えい子さんが話されました。

ミニ企画展『「世界の子ども平和像」運動のあゆみとその目指すもの』が2006年7月11日～8月10日の会期により、2階常設展示場の中のミニ企画展示室で開催されました。東京・広島・京都の、3か所の「世界の子ども平和像」をつくあげた運動を紹介するとともに、3つの像のエスキースも展示されました。

ミニ企画展「石川俱恵絵画展―シベリヤ抑留、日ソ敗戦、軍隊」が8月15日～9月24日の会期により2階常設展示場の中のミニ企画展示室で開催されました。石川俱恵さんは織物工場を定年退職後、絵画を習いはじめ、自分自身の戦争体験をもとにした絵画などを描いてきましたが、今回は旧満州での戦闘やシベリアでの抑留生活

などを描いた28点の絵画が展示されました。

「白バラの祈り」映画上映会が2006年6月17日に中野記念ホールで開催されました。関連して、安齋育郎館長と井上純一立命館大学教授との対談も開かれました。

また、9月23日には、中野記念ホールで「国連加盟50周年・京都国連寄託図書館開設50周年」を記念するシンポジウムが開催され、学生を中心に120人が参加しました。第1部の映画『ピース・ワン・デー』は、安齋館長の解説に続いて、舞台横の副画面に日本語訳が映し出される方法で上映されました。映画の翻訳作業は、安齋ゼミOBの田北多絵さん、佐藤史郎さん、水野賢二さんが担当、当日の投影作業は同じくOBの森下直紀さんが担当しました。

続くシンポジウムでは、原陽一国際部長の司会の下で早乙女光弘さん（外務省参与・NGO担当大使）、吉岡達也さん（ピースボート）、石原直紀さん（国際関係学部）、君島東彦さん（国際関係学部）が話され、会場からも質問が出されました。

Tel: 075-465-8151 Fax: 075-465-7899

<http://www.ritsumei.ac.jp>

#### 向日市文化資料館：京都

夏のラウンジ展示「06くらしのなかの戦争」展が2006年8月12日～9月24日の会期で開催されました。これは、市民から寄贈された資料を展示し、戦時下の人びとのくらしをたどるものです。戦地に赴くときに携行する奉公袋や軍隊手帳、真珠湾攻撃を伝える新聞のほか、入隊から除隊までの軍隊生活を表した漫画や自らの思いをつづった日誌など当時の生活を偲ぶものが展示されました。

Tel:075-931-1182 Fax:075-931-1121

<http://www.city.muko.kyoto.jp/shisetsu/shiryokan.html>

#### 大山崎町歴史資料館：京都

小企画展「第8回平和のいしずえ」が2006年8月10日～27日の会期で開催されました。これは戦争前後の資料を展示して、平和の尊さを考えるものです。

Tel:075-952-6288

<http://www.kiis.or.jp/rekishi/kyoto/yamazaki2.html>

#### 大阪国際平和センター（ピースおおさか）

特別展「戦争で失われた船」展が1階特別展示室で2005年7月19日～9月10日の会期で開催されました。太平洋戦争でほとんどの民間の船や船員が軍に徴用されましたが、護衛が不十分なこともあって、多くの船が沈没し、約6万人の船員が亡くなりました。戦争によるこのような悲惨な事実を語り継ぐために開かれた展示会です。戦前・戦中・戦後の海運を取り上げていますが、中心は戦中の徴用とそれによる被害で、主な展示品は、戦没船模型、戦没船写真、戦没船絵画、太平洋の地図、死亡告知書などです。

特別展「アフリカに生きる子どもたち—奴隷・兵士・エイズ・貧困そして未来」が1階特別展示室で2006年9月22日～11月12日の会期で開催されました。

「8.15終戦の日 平和祈念事業」として、講演会「太平洋戦争と日本の海運」が1階講堂で2006年8月13日に開かれ、戦没船を記録する会の渡辺修さんが「元船員の戦中、戦後」と題して、戦没商船拿捕船研究会の宮田幸彦さんが「日本商船隊の壊滅と経緯について」と題して、それぞれ講演しました。

第22回「21世紀の平和を考えるセミナー」は、「もず唱平が語るスリランカ」として、ニフェール・アンサリーさんによるスリランカからの現地報告、作詞家のもず唱平さんによる講演「インド洋津波が平和に与える影響」、MAYUMIさんによるスリランカの歌のミニライブが、1階講堂で開催されました。

Tel:06-6947-7208 Fax:06-6943-6080

<http://mic.e-osaka.ne.jp/peace/>

#### 堺市立平和と人権資料館：大阪

企画展「戦時下の市民のくらし」が2006年7月1日～9月29日の会期により開催されました。この企画展は、写真パネルや実物資料から、戦争当時の日常生活、特に食料や衣類などの生活必需品に支障が生じたことを振り返り、限りある資源の大切さを知り、戦争の悲惨さ、平和の

尊さ、いのちの大切さを考えてもらうために開催されたものです。

Tel:072-270-8150 Fax:072-270-8159

[http://www.city.sakai.osaka.jp/city/info/\\_jinke/n/](http://www.city.sakai.osaka.jp/city/info/_jinke/n/)

#### 平和人権子どもセンター：大阪・堺市

第10回総会で、2007年度から教科書総合研究所に移行することが確認されました。ウオロ6月号で、「10年目を迎えた平和人権子どもセンター、利用者も2万人突破」という記事が紹介されました。詳細はだより『草の根』30号に書かれています。

Tel&Fax: 072-229-4736

#### 大阪人権博物館

企画展「15年戦争を生きぬいた人々—館蔵資料を中心に」が1階特別展示室で、2006年7月25日～8月27日の会期により開催されました。これは、15年間の戦争を生きた人びとの足跡を資料でたどるもので、資料の多くは地域の人びとから人権博物館だからという理由で特に寄贈されたものです。その主なものに、羽曳野から陸軍で満州・朝鮮に出征した万野国春さんの資料、西成から海軍でラバウルへ出征した前田勇さんの資料がありました。また戦時下の戦意高揚をはかるポスターも多数展示されました。さらに沖縄戦に従軍し、その後復帰後の沖縄で沖縄戦の記憶の写真を撮り続けている渡辺憲夫さんの写真も展示されました。8月15日の敗戦関係の資料と、敗戦をどう受け止めたかの証言も展示されました。あわせてフォトコレクションから、江成常夫さんの満州の戦争孤児、伊藤孝司さんの韓国・朝鮮人被爆者など、戦争により被害を受けたアジア各地における戦争の記憶を記録した写真家の作品も展示していました。図録を刊行しています。関連して2006年8月20日に講演会が開かれ、「大阪戦災障害者・遺族の会」代表の伊賀孝子さんの講演「浪速区の空襲を語る」がありました。

Tel:06-6561-7173 Fax:06-6561-3572

<http://www.liberty.or.jp/>

#### 大阪歴史博物館

特集展示「あのころ、こんな子どもの本があった—戦中・戦後の絵本から教科書まで」が常設展示場中の8階特集展示室で2006年6月14日～8月28日の会期により開催されました。ここでは、「子どもの本の歴史」「検閲」「原爆」などのコーナーを設け、メリーランド大学・プランゲ文庫に所蔵される日本の児童書などを展示し、あわせて「大阪」コーナーでは、敗戦後、大阪で刊行された雑誌『ひかりのくに』、新聞『コードモ大阪』など、地元の出版物を展示していました。「教科書」コーナーでは、敗戦直後の墨塗り教科書・暫定教科書を経て、アメリカの教科書を参考にした教科書づくりが模索された様子を紹介していました。また、本土とは異なった状況におかれ、1972年までアメリカ統治下にあった「沖縄」について、子ども文化に関する統治政策や、沖縄独自の出版活動についても取り上げていました。

Tel:06-6946-5728 Fax:06-6946-2662

<http://www.mus-his.city.osaka.jp/>

#### 柏原市立歴史資料館：大阪

春秋企画展「戦争の記憶—2000年の歴史」が企画展示室で2006年3月25日～6月11日の会期により開催されました。これは、弥生時代から、古墳時代、壬申の乱、太平寺の戦い、大坂夏の陣、日清・日露戦争、太平洋戦争までの戦争の歴史を、柏原と戦争との関わりという視点で展示したものです。

Tel:072-976-3430

#### 姫路市平和資料館：兵庫

「非核平和展」が2階展示室で2006年7月16日～8月31日の会期により開催され、市内の小・中・高生の作品と被爆資料・原爆写真パネルなどが展示されました。関連して、8月6日に姫路パルナソス合唱団・姫路市児童合唱団による「平和を共に歌う合唱コンサート」が開かれ、8月20日には前「姫路原爆被爆者の会」会長の首藤好美さんが「被爆体験談」を話しました。

秋季企画展「伝えよう！戦争の記憶を子や孫へ」が2階展示室で2006年10月1日～12月20日

の会期により開催され、日本絵手紙協会の協力を得て、戦後60年が経った今でも心に深く刻み付けられたさまざまな思いが込められた絵手紙を中心に展示しています。関連して、11月3日に市内の空襲体験者による体験講話が開かれました。

Tel:0792-91-2525 Fax:0792-91-2526  
<http://www.city.himeji.hyogo.jp/heiwasiryoy/>

#### 広島平和記念資料館

2006年度第1回企画展「託された 過去と未来―被爆資料・遺影・体験記全国募集新着資料より」が 東館地下1階の展示室で、2006年7月20日～2007年7月10日の会期により開催されています。

Tel:082-241-4004 Fax:082-542-7941  
<http://www.pcf.city.hiroshima.jp/>

#### 福山市人権平和資料館：広島

企画展「平和アピール展&ヒロシマ・ナガサキ展」が、2006年8月4日～17日の会期で開催され、市民から寄せられた平和への願いが込められた作品が展示されました。

企画展「『みーんな地球の人間だもの』―世界にひろがれ平和の願い」が、2006年9月14日～12月10日の会期で開催され、日本の絵本作家103人が絵を描き、つなぎあわせてつくった1冊の絵本と、福山の子どもたちが描いた絵「平和の願い」を展示しています。

Tel:084-924-6789 Fax:084-924-6850  
<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/jinke/nheiwashiryoukan/>

#### 高松市市民文化センター平和記念室：香川

常設展示室の「最近の収蔵品コーナー」で2006年6月1日～9月30日の会期により、岡山県津山市在住の牧野俊介さんが描いた「広島原爆救援活動」の絵画23枚と広島平和記念資料館作製の『平和学習のしおり』など10点が展示されました。

「平和記念室収蔵品展」が高松市市民文化センター1階ロビーで2006年8月23日～31日の会期で開催されました。市民から寄贈された収蔵品とともに、沖縄戦写真パネルも展示されま

した。

「高松市戦争遺品展」が高松市役所1階市民ホールで2006年7月31日～8月4日の会期により開催され、戦争の悲惨さと平和を願う市民の心をつたえるために、市民から寄贈された戦争に関する資料、当時の生活用品や空襲被災写真などを展示しました。

「高松戦災・原爆写真展」が高松市役所1階市民ホールで2006年8月7日～11日の会期により、戦争の悲惨さと平和の尊さを再確認するために開催されました。

「教職員のための平和教育講演会」が高松市市民文化センター3階第1集会室で2006年8月25日に開かれ、中島省三さんの講演「戦争の悲惨さと平和の大切さを語り継ぐための教師の役割」と喜田清さんの「高松空襲体験談」がありました。

Tel:087-833-7722 Fax:087-861-7724  
<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/1794.html>

#### 鳴門市ドイツ館：徳島

下記のように、さまざまな取り組みがなされています。

- ・6月3日 ドイツワインの夕べ
- ・6月10日、11日 ドイツW杯キックオフイベント
- ・7月1日～30日 徳島・板東俘虜収容所所長 松江豊寿の実相
- ・7月15日 七夕コンサート
- ・8月6日～26日 「バルトの楽園」子ども絵画展
- ・8月13日、14日 ドイツビール・ワイン祭り
- ・8月20日 あれから61年 第12回ピースコンサートin鳴門
- ・8月26日 シンポジウム「徳島・板東収容所 長 松江豊寿を探る」
- ・9月2日～24日 ドイツ観光ポスター展
- ・9月9日、10日 ドイツの木版画ワークショップ
- ・10月7日～29日 リューネブルク・パレット絵画展
- ・10月15日 第13回ドイチェス・フェストinなると

- ・11月3日 遊ぼう「マルティン祭」
- ・11月3日～12月24日 ドイツのクリスマス・マーケットフェア
- ・11月18日～12月24日 ドイツのクリスマスマーケット展
- ・11月19日 薦田義明リーダーアーベント
- ・11月26日 コーラス9「モーツァルトコンサート」
- ・12月16日 マルディグラ

(<http://www.city.naruto.tokushima.jp/germanhouse/index.html> より)

TEL088-689-0099 FAX088-689-0909

Email: [info@doitsukan.com](mailto:info@doitsukan.com)

### 長崎原爆資料館

「原爆資料館開館10周年特別企画展」が企画展示室で2006年6月28日～8月31日の会期により開催されました。これは原爆資料館の前身である国際文化会館の建設から今日までの、原爆資料館や長崎市の平和活動の記録を展示したものです。

Tel:095-844-1231 Fax:095-846-5170

<http://www1.city.nagasaki.nagasaki.jp/na-bo/mb/museum/>

### 沖縄県平和祈念資料館

2006年度「児童・生徒の平和メッセージ展」が2006年6月23日～7月9日の会期により開催されました。引き続き八重山平和祈念館で7月12日～22日の会期により開催されました。

第7回特別企画展「沖縄戦における住民動員—戦時下の根こそぎ動員—」が2006年10月10日～12月17日の会期で開かれています。戦時下の国家総動員体制の下では、ヒト・モノ・カネが総動員されました。多くの犠牲者を出した沖縄戦の住民動員の実態を展示したものです。展示構成は、1、戦争への国民動員 2、沖縄戦に向けての住民動員体制 3、沖縄戦と住民動員 4、沖縄戦における住民犠牲の実態 の4つです。

子ども・プロセス企画展「子どもたちと沖縄戦」が2006年5月9日～7月17日の会期により開催されました。

子ども・プロセス企画展「環境問題を考える」が2006年9月11日～10月15日の会期により開

催されました。

『平和への証言—体験者が語る戦争』が2006年3月に刊行されました。これは常設展の第4展示室で展示している証言と、収録公開している証言映像の中から選んだ証言を掲載しています。内容としては、疎開、一〇・一〇空襲、沖縄戦、外地での戦争体験などの証言と、体験者の平和への思いをこめたメッセージが収録されています。

Tel:098-997-3844 Fax:098-997-3947

<http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp>

### 出版物

『全員勝ったで！原爆症近畿訴訟の全面勝訴を全国に』原爆症認定近畿訴訟弁護団著、安斎育郎監修、かもがわブックレット、600円、2006年10月27日

『広島平和科学』28号：広島大学平和科学研究センター 2006年

村上登司文さんの「平和形成方法の教育についての考察—中学生の平和意識調査を手がかりに」など掲載

**Hakujin by Helene Gabel RyanAnthes Press**  
2005 \$12.95～白人の女性の視点で日系アメリカ人の歴史、人種差別、男女差別、戦争体験などが描かれています。(英文です)

『Peace あさかわ』54号(2006年10月10日発行)には、第10回戦争遺跡保存全国シンポジウム群馬大会について報告しています。

浅川地下壕の保存をすすめる会発行。

Tel & fax: 0426-52-0552

Email: [tadaomi@athena.ocn.ne.jp](mailto:tadaomi@athena.ocn.ne.jp)

<http://www.Park21.wakwak.com/~asakawa/>

『日吉台地下壕保存の会会報』80号(2006年9月15日発行)

日吉の戦争遺跡ガイド養成講座が10月から1

月まで1か月に1回開催されます。

Tel: 045-402-9090(亀岡さん)

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Hanamizuki/2402>

『映像文化協会ニュース』14号(2006年9月15日発行)

日本によるアジア侵略の社会構造的原因を追究したビデオ「戦争案内」(60分)などが紹介されています。

227-0061 神奈川県横浜市青葉区桜台4-48

TEL:045-981-0834/FAX:045-981-0918

[eizobunka@r5.dion.ne.jp](mailto:eizobunka@r5.dion.ne.jp)

下記のメールがアメリカのRaymond Wilson氏から送られてきました。

(1) 核戦争を授業で教えるとき、わたしは今村昌平の「黒い雨」の他にデニス・クエイドのCome See the Paradiseを見せます。これは1946年のアメリカ西海岸沿岸州における日系人の強制収容を扱っています。最近、この映画のDVDが発売になったのですが、これには映画の他にEmiko Omoriのドキュメンタリー「月の兎」が収められています。忠誠宣誓の問題や収容所内での反乱などを扱っており、大変なお買い得。Amazon

([http://www.amazon.com/Come-See-Paradise-Alan-Parker/dp/B000EXDSCK/sr=1-1/qid=1160009747/ref=pd\\_bbs\\_1/102-5922084-5484958?ie=UTF8&s=dvd](http://www.amazon.com/Come-See-Paradise-Alan-Parker/dp/B000EXDSCK/sr=1-1/qid=1160009747/ref=pd_bbs_1/102-5922084-5484958?ie=UTF8&s=dvd))、Ebay

([http://cgi.ebay.com/Come-See-the-Paradise-New-DVD-LOW-PRICE\\_W0QQitemZ120038665528QQihZ002QQcategoryZ617QQcmdZViewItem](http://cgi.ebay.com/Come-See-the-Paradise-New-DVD-LOW-PRICE_W0QQitemZ120038665528QQihZ002QQcategoryZ617QQcmdZViewItem)) で購入可能です。

(2) 「原爆の子」(1952年)がDVDになりました。監督は新藤兼人、英語の字幕つきで9ドルです。またHugh Haskellから核軍縮の記事

(<http://www.newsobserver.com/559/story/482610.html>) を送ってもらいました。

Japan's War in Colorが10ドル以下でAmazon

([http://www.amazon.com/Japans-War-Color/dp/B000AQ69QI/sr=1-1/qid=1159897587/ref=sr\\_1\\_1/002-0346798-3102413?ie=UTF8&s=](http://www.amazon.com/Japans-War-Color/dp/B000AQ69QI/sr=1-1/qid=1159897587/ref=sr_1_1/002-0346798-3102413?ie=UTF8&s=)

[dvd](#)) から購入できます。アメリカ、イギリス、日本のカラーフィルムから、街角や田舎や都会、戦争の場면을収めています。

Raymond G. Wilson, Ph.D.  
Emeritus Associate Professor  
FAX: 309-556-3864  
Illinois Wesleyan University  
Bloomington, IL 61702-2900  
USA

#### 〈おことわり〉

無署名の記事は、編集者の責任でまとめたものですが、署名記事は執筆者の責任で書かれたもので、「平和のための博物館・市民ネットワーク」の事務局や編集者の見解を、必ずしも示すものではありません。

#### 〈お願い〉

2006年度会費などを未納の方には、請求と振替用紙を同封しております。年会費2000円を納入してください。